

東北大学文学部 (2013年度) 現代日本論基礎講読「論文作成の基礎」

第12講 期末レポートの執筆 (7/2)

[テーマ] 期末レポートの様式と条件

1 中間レポートについて

- 事実と意見の書きわけ (第10講「科学的文体」参照)
- 素材の説明が不足していることが多い。その素材を読んだことがない読者を意識して書くこと。
- ひとつのセクションには複数のパラグラフを盛り込むこと。そのセクションに必要なトピックはなにか、必要な説明が抜けていないか、よく考える。
- トピックが何かわからないパラグラフや、ふたつ以上に分割すべきパラグラフが多い
- URL を書く場合は、適当な箇所に空白を入れて、改行位置を調整する
- 書体 (font) が統一されているか、印刷面をよくみて確認すること

点数は20点満点です。内訳と採点基準は、採点表を参照。

8/19 (月) 17:00 までに再提出 (ISTU) すれば、5点以内の範囲で加点します。

2 期末レポートについて

- テーマを決めて、7/8 (月：正午まで) に「構想報告書」を提出 (下記参照)
- 7/16 (火) 授業時に、レポート進捗状況を持ち寄って討論
- レポート本体を 8/16 (金) 17:00 までに提出 (PDF 形式)
- 「執筆経過」を 8/19 (月) 17:00 までに提出

提出先はいずれも ISTU。レポート本体については、PDF ファイルのみに限定する (中間レポートと同様)

- 分量は A4 用紙 6 ページ以上
- キーワードを 3~5 個つける (下記参照)
- 文献 2 本以上を参照すること
- 図または表を 1 枚以上ふくめること
- 提出前に誰かに読んでもらうこと (謝辞に明記する)
- その他の様式は中間レポートとおなじ

期末レポートの構成は以下のとおり：

- 種別・表題・著者名・所属・日付
- キーワード
- 本文
- 注（もしあれば。脚注を使用してもよい）
- 文献表（文献2本以上について必要な書誌情報をあげる）
- 謝辞

テーマは、各自の興味に則って決める。ただし、時間的な制約の中で、きちんと先行研究にあたった上でオリジナルな内容を盛り込めるテーマでなければならない。大きな研究につながるようなテーマの中で、できるだけ小さい範囲にしぼりこむのがよい（教科書 pp. 13-21）。

3 先行研究の探索

先行研究を探するには、詳しい人（教員や大学院生など）に聞くか、入門書・概説書を探すかして、基礎的な情報をまず仕入れるのが常道である。たとえば、その分野の常識的な知識、基本的な用語、既存の論争や学派の違いなど。この段階では、図書館よりは書店のほうに分がある。初学者・一般読者向けの雑誌がある分野では、そのバックナンバーに目を通すのもよい。

その上で、網羅的に文献を探してみる。解説書などの文献表から「芋づる」式に探したり、文献データベースを利用する。図書館のサービスを活用すること。

4 構想を立てる

- 目標規定文（論文の目標を1文で表現したもの：教科書 pp. 22-24）
- 目次案
- 表題をつける
- キーワードをえらぶ

表題は、内容を具体的に示したものでなければならない。内容に関する情報を詳しく載せるほうがよいが、一方で短いほうがよいというトレードオフ関係がある。副題を活用するなどして、簡潔でわかりやすい表題を工夫する。

表題の例:

- 冷春化：1950-2000年の平均気温の変動
- スチール製空き缶の効率的利用法

キーワードは、本来はデータベースでの検索用である。論文の内容を端的に表すことばを3-5個程度えらぶ（通常は、表題にふくまれていないことばをえらぶ）。

キーワードの例:

- 気候変動, 温暖化, 温室効果ガス, エル・ニーニョ
- 鉄スクラップ, バクテリア・リーチング, 分離工学

5 文献表の作成

論文の末尾に「文献」というセクションを設け、論文で引用した文献(2本以上)をそこにすべて掲げる。形式は、前回資料にしたがうこと。

6 謝辞

草稿を読んでコメントしてもらったり、内容に関する改善を助けてもらうなど、執筆にあたって便宜を図ってもらった人への謝辞を最後に書く。何について感謝するのかを明確に書くこと(教科書 p. 208)。必要なら、所属を括弧書きでつける

謝辞の例:

- 「草稿に対する〇〇氏(××大学△△学部)の助言によって文章が大幅に改善された」
- 「xx節の□□は〇〇氏(××大学△△学部)のアイデアによる」
- 「本稿で使用した□□データは〇〇研究所所蔵のものを貸与していただいた」

7 構想報告書

下記のような様式で構想報告書を作成し、7/8(月)正午までにISTUに提出。

氏名:
学年:
学籍番号:

1. 表題(仮):
2. 目標規定文:
3. これまでに収集した資料の一覧:
4. 資料収集と執筆にあたっての問題点(こういう文献が見つからない、など)

8 執筆経過

期末レポートを書くにあたって、構想報告書以降の執筆の経過をまとめる。

- 収集した文献・資料 (最終的に使わなかったものもふくむ)
- 構想のまとめかた
- 執筆にあたってとくに工夫・苦勞した点
- 読んでもらうことで改善された点

8/19 (月) 17:00 までに ISTU に提出

9 文献同定作業について補足

- 雑誌と書籍の区別
- 東北大学附属図書館 OPAC <<http://www.library.tohoku.ac.jp/opac/>> の配架場所の表示
- NACSIS CAT ID (NCID)
- 学外の所蔵場所、雑誌巻号の表示
- 国立情報学研究所 CiNii Books <<http://ci.nii.ac.jp/books/>> について
- 検索のテクニック: 「完全形」の検索、項目の限定、絞り込み
- 同名の情報が多数ある場合
- 表題などがちがう場合、記載ミスがある場合
- 雑誌名の最初の冠詞や副題は省略されることが多い
- 標準番号 (ISBN, DOI など) の利用

10 文献引用の目的

- 出典の明示
- 読者が原典を入手して検討できるようにする
- 文献の紹介

つぎの事項は引用不要

- ★ 一般的な常識や学問上の基礎知識
- ★ データの確認法が自明の場合

根拠や出典に関する疑問を感じさせる事柄を述べるときは、かならず出典を明示する

11 課題

配布資料 を読み、文献引用の方法について理解する (提出不要)。